

# いすま Smile

岩国にしかない文化を繋ぐ

Vol.112

横田 太陽さん  
(横山在住)

岩国石人形ミニ資料館代表。伝統工芸品の石人形を作りながら、岩国の郷土史について学ぶ。地元の人に岩国の魅力を知ってもらうため2009年に『岩国・錦帯橋検定』を出版する。



▼ニスを塗った石人形をピンセットで丁寧に並べ作品を作る横田さん



「僕がやめたら石人形の文化がなくなってしまうから、続けるんです」そう柔らかな笑顔で熱く話すのは、石人形という工芸品を日本で唯一作る横田太陽さんです。

石人形とは、ニンギョウトビケラという昆虫が川底の石や砂を集めて作った巣を人形に見立てた民芸品です。江戸時代から岩国の名産として知られ、

なつてしまふから、続けるんです」そ

れが作られています。

家業として石人形は幼い頃から身近な存在だったため「お手伝いしたらお小遣いがもらえる程度の感覚でしたね」と少年時代を振り返る横田さん。大阪の会社に就職した横田さんに転機が訪れたのは入社4年目のこと。岩国

の豊かな自然や空気を懐かしく思つていた自分に気付き、父親の還暦をきっかけに、思い切つて岩国に戻ることを決めます。

石人形作りを手伝い始めた横田さんでしたが、観光客から石人形のこと以外に岩国について質問されたことが多くありました。答えられないことが嫌で図書館や資料館で岩国の郷土史について必死に勉強を始め、

改めて岩国のこと学ぶうちに一つの思いが芽生えます。

「地元の人にこそ岩国的魅力をもつと知つてもらい、もっと好きになつてもらうことが地域振興の一歩の近道ではないか」そして20代最後の年には岩国の歴史や文化を楽しみながら学べる検定本の自費出版まで果たします。資料集めや写真撮影、編集作業まで全て一人で作り上げた経験は、岩国愛を深め、自分の力で岩国と石人形文化を広めることができるとの自信が生まれています。

「小さな石ですが、一つとして同じ形はなく見る人によって見える形も違う、そこが僕にとっての魅力ですね。築かれてきた岩国の歴史や文化の中にその石人形もある、自分の代で絶やすなんとか未来に繋いでいきたい」そんな使命感を感じながら、横田さんは今日も黙々と作品を作ります。



▲採集作業の最盛期は5~6月で、1日に2千個も採集するという



▲小さな石人形にはそれぞれ個性があり、見える形はあなた次第